各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	上 野 正 実	所　属	地域農業工学科	職　名	教 授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	（1）学部担当科目（農業システム論、バイオマス工学、農業エネルギー工学等）を担当する。各科目とも最新の話題等を盛り込み内容の充実に努める。（2）大学院担当科目（生産システム工学特論・同演習等）では基礎的内容を正確に理解させ，応用力を高めるための工夫を行う。	0.30	学部担当科目，大学院担当科目ともに計画に沿った活動ができた。この中で最新の研究成果とくに自身の研究成果をかなり盛り込むことができた．農業エネルギー工学については内容と理解度の調整が必要と考えている．卒論については一通りの内容の論文作成を指導できたが，学生の実力からみてさらに内容の充実を指導しても良かったのではと考えている．
研究	0.35	（1）研究論文3報以上の投稿を目指す。（2）ICT農業および植物工場など先進研究の推進に努める。（3）受託研究を中心にバイオマスを利用した低炭素社会構築に関する研究を実施する。（4）新しい研究領域の開拓に努める。（5）国際共同研究や国際会議での研究発表を行う。	0.30	（1）サトウキビ，バイオマス，塑性力学等の分野で5編以上の論文が受理され，現在2編が査読中である．（2・3）植物工場やICT農業に関する受託研究を実施もしくは計画を行うことができた．（4）新分野として冷熱や太陽熱エネルギー利用に関する研究を行った．（5）タイでの国際会議での発表やマーシャル・ボツワナでの共同研究を実施した．
社会貢献	0.20	（1）沖縄におけるバイオマス利用・温暖化対策，農業振興および環境保全に関する普及・調査活動を行い，市町村や民間団体への支援を行う。（2）サトウキビ品質取引業務等を支援する。（3）学会の運営等に関する活動を行う。（4）JICAの集団研修「熱帯バイオマス・バイオ燃料利用」を実施する。(5)国際的な研究支援活動を行う。	0.25	（1）読谷村においてバイオマス利用事業を支援している．（2）サトウキビの品質取引業務・関連研究業務を実施している．（3）JICA集団研修「熱帯バイオマス・バイオ燃料利用」を5名の研修員を受け入れて実施した．（5）タイのサトウキビ機械化，中国の塩類集積土壌修復等で研究支援を行った．
管理運営	0.10	学科長の業務を中心に学部運営等に関する役割を果たす。	0.10	学科長の業務を果たした．
進路指導	0.05	学部学生および大学院生の進路相談に日常的に乗り、様々な情報提供・紹介を行う。	0.05	4年次学生を中心に進路指導を行った．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

名　前	弘中和憲	所　属	（学部・研究科等）	農学部地域農業工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比		年度末自己点検結果
教育	0.10	・ニュージランド王立学院より，外国人研究者を受け入れる。 ・中国人留学生の研究指導を行い，英語論文の投稿を指導する。 ・学部授業（「生物生産システム設計学」，「外国語文献講読Ⅰ」，「生物資源プロセス工学」，「卒業論文Ⅰ」，「ポストハーベストテクノロジー」，「生物材料工学」，「バイオシステム工学実験Ⅱ」，「卒業論文Ⅱ」，大学院授業(「農産施設工学特論」，「食品工学特」）を行う。	・ニュージランド国立リンカーン大学より，ディアマンテ講師を特別研究生として受け入れ，研究指導を行っている。・岩手連大派遣学生エリヘムさんの研究指導を行い，平成24年6月第61回日本食品保蔵科学会にて優秀プレゼンテーション賞を受賞させることができた。さらに，LWT- Food Science and Technologyおよび日本食品保蔵科学会に英語論文を投稿させ，現在審査中である．・学部授業（「生物生産システム設計学」，「外国語文献講読Ⅰ」，「生物資源プロセス工学」，「卒業論文Ⅰ」，「ポストハーベストテクノロジー」，「生物材料工学」，「バイオシステム工学実験Ⅱ」，「卒業論文Ⅱ」，大学院授業(「農産施設工学特論」，「食品工学特論」）を行う。
研究	0.70	・国際学会誌に筆頭著者として，1報を投稿，発表する。 ・国際学会誌(4誌）のeditorとして，任務を遂行する。 ・国際学会誌(1誌）の海外レフリーとして，任務を遂行する。 ・国際学会誌に共著（コレスポンディングオーサー）として，1報を投稿，発表する。 ・農業機械学会シンポジウム（FOOMAJAPAN2012）の実行委員長として，任務を遂行す ・日本食品保蔵学会の評議員として，任務を遂行する。 ・農業機械学会九州支部編集幹事として，任務を遂行する。 ・国際学会1件，国内学会3件の口頭発表を行う。	・Food and Bioprocess Technologyに投稿するも不採択となり，現在，他の雑誌に投稿準備中である。・国際学術誌（オープンアクセス）が論文が集まらず，任務を遂行できなかった。・国際学術誌2誌(Scientific Journals International およびInternational Journal of AgriSciencel）のEditorial Boardとして，任務を遂行した。・LWT- Food Science and Technologyに共著（コレスポンディングオーサー）として，1報を投稿，審査中である。・農業機械学会シンポジウム（FOOMAJAPAN2012）の実行委員長として，任務を遂行した。・日本食品保蔵学会の評議員として，任務を遂行した。・日本食品保蔵学会および南方資源利用技術研究会と共に，セミナーを開催した。・南方資源利用技術研究会の理事として，任務を遂行した。・農業機械学会九州支部編集幹事として，任務を遂行した。・農業機械学会誌に特集記事を掲載した。・国際学会（アメリカ化学会（フィラデルフィア）1件，国内学会（農業機械学会本部大会（宇都宮），同九州支部大会（宮崎），食品保蔵科学会（大阪））3件で口頭発表を行った。
社会貢献	0.10	・FOOMA　JAPAN2012（国際食品工業展）に出展し，食品企業関係者の技術指導を行う。	・FOOMJAPAN2012（国際食品工業展，東京，6月）に出展および口頭発表を行い，食品企業関係者の技術指導を行った。
管理運営	0.05	・予算委員を務める。進路指導委員を務める。1年生指導委員を務める。	・予算委員を務めた，任務を遂行した。・進路指導委員を務めた，任務を遂行した。・1年生指導委員を務め，任務を遂行した。
進路指導	0.05	4年次学生の就職支援(企業紹介）を行う。	・4年次学生の就職支援(企業紹介）を行った。
	0.00		・・・
計	1.00	備　考	

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	鹿内　健志	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.25	学部担当科目（農業情報工学，農業電気電子工学概論，農業システム工学等），大学院講義（農学研究の方法，生産システム・情報工学特論）を担当する。担当科目については可能な限りe-Learningシステムを活用し，予習・復習を効果的進める学習方法を実践する。また，卒業論文のための研究指導を行う。 地域農業工学科4年次指導教員としてオフィスアワーの活用，コミュニケーションカード，メーリングリスト等により指導・相談を行う。	0.25	学部担当科目（農業情報工学，農業電気電子工学概論，農業システム工学等），大学院講義（農学研究の方法）を担当し、学部担当科目についてはWebclassを活用し，予習・復習を効果的に進める授業が実施できた。4年次指導教員として年次懇談会やメーリングリスト等により指導・相談を行った。
研究	0.30	農業・食品産業技術総合研究機構　九州沖縄農業研究センターと共同の科学研究費による研究をさらに進める。成果を学会（農業環境工学合同大会等）で発表する。	0.30	科学研究費による集落営農・生産法人支援のための作業改善システムの開発の研究成果について研究を進め，農業環境工学合同大会にて報告した。
社会貢献	0.10	オペレーションズ学会「食料・農業・環境における意思決定」研究部会の主査として，講演会，講習会等を開催し，部会での研究推進，成果発表を行う。公開講座（エクセルによる数学シミュレーション）を実施する。琉球大学生協理事として学内の福利厚生改善に努める。	0.10	オペレーションズ学会「食料・農業・環境における意思決定」研究部会で5回の研究会を開催した。農業機械学会九州支部の事務局として支部運営をサポートした。公開講座（エクセルによる数学シミュレーション）を8月25日に実施した。
管理運営	0.20	全学の学士教育プログラム委員としてURGCCの質の向上に努める。農学部の教育委員，安全衛生委員，中期目標・中期計画推進委員，エコアクション21ユニット，衛生管理者としての委員会活動等に積極的に参加する。亜熱帯フィールド科学教育センター農林教育情報部門長として，亜熱帯フィールド科学教育センターの農林教育情報に関する運営を責任をもって推進する。化学物質等管理に係る検討WGとして，平成24年度に化学物質管理システムの試行運用を進め，平成25年度からの本格運用に向けての制度整備に取り組む。	0.20	学士教育プログラム委員としてURGCCのワークシート，パンフレット等をまとめた。農学部安全衛生講習会を開催した。化学物質管理システムの試行運用を行った。
進路指導	0.15	地域農業工学科4年次指導教員として就職・進学活動のサポートにより就職・進学率の向上に努める。卒業論文指導について，卒業研究の内容を実際への応用に論及しながら指導をすすめ，将来のキャリアに活用できるような基本能力を身に付けることができるような指導を進める。大学院講義「農学研究の方法」で修士学生のキャリア教育を行う。	0.15	4年次指導教員として就職・進学活動のサポートを懇談会などでおこなった。大学院講義「農学研究の方法」でキャリア教育を行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	平良英三	所　属	農学部	職　名	助教

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目で情報科学演習（分担），バイオシステム工学実験Ｉ，農業環境計測工学等を担当する。学生の理解度に合わせた解説を行い、基礎知識・技術の習得ができるように努める。学部学生，修士学生が卒業研究で必要な実験や学習の補助を行う。	0.30	担当科目「バイオシステム工学実験Ｉ」，「農業環境計測工学」等を担当し，シラバスに沿って授業を行った。講義時間外，オフィスアワー以外の時間でも質問を受け付け，学生の基礎知識の習得ができるよう努めた。また，卒業研究や修士学生の指導補助を行った。
研究	0.40	これまでの研究成果について、国外（タイ）および国内（農業機械学会等）で研究発表を行う。また、海外研究者との交流をはかり、質の高い研究の推進に努める。研究成果を論文等にまとめ（投稿予定3報），成果の公開と研究発展に努める。	0.40	国内の学会，研究会，シンポジウムで研究発表を行い，アジア国際シンポジウムで招待講演を行った。これまでの研究成果を論文として取りまとめ国際会議発表論文として投稿した。著書，研究論文（共著）計2編が発行された。また，これまでの研究成果が評価され，農林水産省技術会議から農林水産若手研究者賞を受賞した。
社会貢献	0.10	県内企業，試験研究機関等と連携し，共同研究を積極的に行う。とくにサトウキビの価格取引に関して，沖縄県と鹿児島県の製糖関係者と連携し，品質評価システムを運用する。また，JA沖縄と協力し，マンゴーのブランド化に関する研究を推進し，産地強化のための情報を提供する。	0.10	開発したサトウキビの品質評価を沖縄県の製糖工場で運用するとともに，24年度から鹿児島地域でも実用を開始した。同評価法を日本統一の分析手法として管理・運用を行った。また，沖縄県とJA沖縄にマンゴーのブランド化を推進するための情報提供を行った。
管理運営	0.10	部局内の委員会活動（図書委員会など）をはじめ，管理運営活動に積極的に参加する。	0.10	環境・交通・施設等委員会，フィールド運営委員会などの委員会活動を行うとともに，学部の管理運営に関する活動に積極的に協力するよう努めた。
進路指導	0.10	学生の進路指導に努める。また，3，4年次には求人情報を提供するなど就職活動の支援を行う。	0.10	就職を希望する学生には新入社員の採用を予定している県内外の企業を学生に紹介した。進学を希望する学生には大学院入学試験について説明し，その対策についてもアドバイスを行った。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

名　前	酒井　一人	所　属	（学部・研究科等） 農学部	職　名	教授

領域	業務ウェイト比		年度末自己点検結果
教育	0.30	学部の講義として応用数学、水文・気象学、外国語文献購読I・II、工学の力学、数学力学演習、地域環境基礎演習I・II、水利環境学、水資源工学、水理学を担当する。 大学院の講義として、生産基盤環境学演習、生産基盤環境学特論を担当する。	・・・左記の講義について問題なく担当した
研究	0.25	査読つき論文の投稿する。	・・・土壌物理学会の雑誌「土の物理性」（論文名：冬季の沖縄県北部亜熱帯広葉樹林地域における CO2 フラックス の地点および観測日による変動実態）に掲載された。
社会貢献	0.10	宮古島水循環協議会の委員として業務を果たす	・・・宮古島の地下水保全流域における新規開発に関する協議を行う宮古島s見ず循環協議会（2回開催）において、委員としての業務を遂行した。
管理運営	0.30	代議員としての業務を果たす。	・・・左記の業務を遂行した。
進路指導	0.05	学部生の就職活動および進学に関するサポートを行う	・・・指導している修士学生については、修士論文研究と就職活動の両立に関して対応し、地方公務員としての就職ができた。4年次の指導学生に関しては、分野外の進路を希望しているために十分なサポートはできなかった。
	0.00		・・・
計	1.00	備　考	

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	瀬戸内　秀規	所　属	農学部　地域農業工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.30	学部担当科目として，材料・コンクリート工学，応用力学，工学の力学，造構学総合演習，卒業論文をJABEEの教育目標に沿った水準，内容で提供する．修士課程においては，地盤工学特論，土質改善学特論，生産基盤工学特別研究Ⅰ，Ⅱ及びⅢを担当する．	0.30	定期的な中間試験の実施ならびに添削により受講生の学習達成度を確認するとともに，JABEE目標の水準の授業を展開した．また，配布資料の充実および証拠資料の作成などに努めた．
研究	0.30	地盤材料の強度および変形特性の評価においては，室内実験が欠かせないが，試験装置と試験体の境界条件が現位置地盤条件と異なるため，実験で得られる測定値は必ずしも，現位置地盤の強度・変形特性を反映しているとは言えない．その相違を定量的に明らかにするため境界条件の設定において自由度の高い個別要素解析による数値実験を展開する．	0.30	地盤材料の室内強度試験として広く活用されている一面せん断試験について，個々の粒子の力学情報を得ることができる個別要素法を定圧一面せん断試験に適用し，せん断箱内周面摩擦の有無によるせん断特性の違いを数値解析的に分析した．さらに，剛な箱内の供試体を用いる一面せん断機構を調べることを目的に，せん断箱内面に作用する応力分布図を作製した．
社会貢献	0.10	研究成果の学会誌への投稿1編および学会発表1編を進めることにより社会貢献に努める．	0.10	本年度研究成果を土木学会論文集（応用力学）1編に投稿し，社会貢献に努めた． オープンキャンパスにおいて，ポスターセッションに関する準備公開を行った．
管理運営	0.25	教授会，学会会議および各種委員会に参加し本学部の管理運営に努める．	0.25	本年度担当した国際交流委員会，ならびに教授会議，学科会議に加わり大学運営を行った．また，センター試験等の試験監督業務を行った．
進路指導	0.05	指導対象である4年次学生および卒業論文の指導教員として学生の生活状況確認および卒業生の就職の斡旋を行う．	0.05	年2回の年次年懇談会を通して，本学科4年次学生の教育及び進路指導を行った．また，4年次卒業生の就職活動の斡旋や卒業論文および生活状況等について指導した．
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに**三者間（評価者、当該教員、部局等の長）**で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	小宮康明	所　属	農学部地域農業工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.40	学部担当授業科目(土質力学、農村基盤施設学、施設工学、外国語文献講読、卒業論文)および大学院担当授業科目（土質改善学特論）のシラバスを作成し遂行する.	0.35	すべての担当授業において休講措置をすることなく、ほぼシラバスに沿って授業を実施した.
研究	0.40	沖縄の地盤（島尻層泥岩、琉球石灰岩など）、バガス炭（サトウキビの搾りかすの炭化物）、製紙スラッジ（パルプや紙をつくるときに排出される汚泥）に関する研究を継続し、学会発表（3回、農業農村工学会、土壌物理学会、紙パルプ技術協会）と論文投稿（１編）を行う.	0.45	①製紙スラッジを用いた植栽用軽量資材の開発、②畑地からのGHG排出量に及ぼすバガス炭の土壌混合の影響、③琉球石灰岩層砂礫部の一次元圧縮特性などの研究を遂行した。そのうち、①は第79回紙パルプ研究発表会（東京6月）、②は平成24年度農業農村工学会大会講演会（札幌市9月）において成果発表を行った.
社会貢献	0.15	NPO亜熱帯バイオマス利用研究センター、沖縄総合事務局、民間企業などの理事、委員、委託試験、技術相談などの要請に応える.	0.10	NPO亜熱帯バイオマス利用研究センターの理事および沖縄総合事務局農林水産部の２件の外部委員を務めた。また、民間企業3社から琉球石灰岩地盤や製紙スラッジに関する技術相談を受け、一部は共同研究を実施した.
管理運営	0.025	教授会、学科会議、農学部の予算配分委員会および進路指導委員会等に出席し審議を行う.	0.05	開催された会議にほぼ出席し各種議題について審議を行った.
進路指導	0.025	進路指導委員会の任務を遂行する.	0.05	農学部進路指導委員として共通教育科目「職業と人生」の非常勤講師の人選を分担した.
その他	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	**評価者**は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（**評価者、当該教員、部局等の長**）で調整	⇨	**評価者**は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	**事務部**は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	**各教員**は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙１） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	仲村渠　将	所　属	農学部	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.00	(1)専門教育科目ではJABEE基準を順守する. (2)共通教育科目の情報科学演習ではURGCC学習教育目標を順守する. (3)卒業論文については現地調査，実験およびデータ解析に関するスキルを修得させる．また，研究発表や論文作成の方法やコツを教え	0.50	(1)JABEE基準を順守できた. (2)URGCC学習教育目標を順守できた. (3)卒業論文は現在進行中ではあるが，調査・実験・解析・論文・発表を確実に達成することができる.
研究	0.00	(1)昨年度からの研究を継続し，今年度分の研究成果を得る. (2)主著論文を2報投稿する.	0.38	(1)実験データを得ることはできたが，現時点では具体的な成果に仕上げられていない. (2)現在の実験データのみでは内容不十分であるため論文を執筆するには至っていない．研究を進める中で追加実験の必要性が明らかとなったため，次年度には達成したい.
社会貢献	0.00	(1)農業農村工学会の琉球大学農学部連絡員を務め，学会の円滑な運営をサポートすることに12時間費やす. (2)日本雨水資源化システム学会の事務局運営をサポートすることに20時間費やす.	0.09	(1)農業農村工学会の琉球大学農学部連絡員を務めた．異動手続き，会費徴収，学会誌と論文集の配布および事務連絡を行った．合計8.5時間活動した. (2)日本雨水資源化システム学会の事務局運営をサポートした．座間味島で開催した大会を主体的に運営した．合計138.5時間活動した.
管理運営	0.00	(1)広報委員会と入試委員会の委員および亜熱帯フィールド科学教育研究センターの兼務教員を務め，農学部の円滑な組織運営をサポートすることに96時間費やす.	0.02	(1)広報委員としてオープンキャンパスを運営した．入試委員会ではセンター試験の受験科目を検討した．亜熱帯フィールド科学教育研究センターの兼務教員を務め，センターの活動状況が良好であることを確認した．合計36.25時間活動した.
進路指導	0.00	(1)就職試験や大学院受験対策の質問や相談に32時間費やす.	0.01	(1)公務員採用試験に関する相談に応じ，受験分野および重視すべき受験科目についてアドバイスした．また，解答の添削指導を行った．農業高校での教育実習に立ち会った．約16時間活動した.
	0.00		0.00	
計	0.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

名　前	中野　拓冶	所　属	（学部・研究科等）	農学部地域農業工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比		年度末自己点検結果
教育	0.30	学部科目として、農村農地環境概論、農村農地整備学、測量学、測量学実習（分担）、応用測量学、地域環境基礎演習Ⅲ、農地及び防災工学演習（分担）等を担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、大学院研究科目として、農地工学特論等を担当する。	学科科目として、農村農地環境概論、農村農地整備学、測量学、測量学実習（分担）、応用測量学、地域環境基礎演習Ⅲ、農地及び防災工学演習（分担）、外国文献講読（分担）を担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、また、大学院科目として、農地工学特論、農学研究最前線（分担）等を担当し、シラバスに沿って講義を実施した。
研究	0.40	農業農村工学会等の研究関連分野の学会講演会等で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を投稿する。さらに、共同研究・助成研究等の実施を通じて研究成果の実用化に向けた取り組みを目指す。また、土木学会や農業農村工学会の委員・幹事等としての参画を通じて、学外学会活動に貢献する。	研究関連分野の学会講演会等（日本地下水学会春季・秋季大会、農業農村工学会全国大会・九州支部大会、土木学会西日本支部沖縄会研究発表会等）で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を投稿し、農業集落排水施設に係る研究論文2編等が農業農村工学論文集等に掲載された。また、河川環境管理財団助成研究、沖縄県バイオ産業活性化支援事業（硫黄酸化細菌による硝酸性窒素汚染地下水浄化技術開発）、微生物等を活用した汚染土壌浄化処理技術開発事業（沖縄県）、沖縄県島しょ型環境システム海外展開推進事業（省エネ型高度処理浄化システム研究開発事業）等への参画を通じて研究成果の実用化に向けた取組みを実施した。さらに、農業農村工学会農村計画研究部会常任幹事、水環境学会九州支部評議員、日本土木学会西部支部沖縄会委員等を務め、学外学会活動に貢献するとともに、農村計画研究部会常任幹事として、第34回現地研修集会（H24年9月7～8日）を沖縄県で開催した。
社会貢献	0.10	公開講座「高校生が学ぶ食料と水環境問題」や出前授業の企画・実施を通じて、高校生等の学外に積極的に農業と水環境の関わり、琉大農学部の役割等を発信する。また、オープンキャンパスにおいて、研究室を公開する。行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行う。さらに、日本水土研究所の委託研究員も務め、社会貢献に努める。	公開講座「高校生が学ぶ食料と水環境問題」や中部農林高等学校への出前授業の企画・実施を通じて、高校生等の学外に積極的に農業と水環境の関わり、琉大農学部の役割等を発信した。オープンキャンパスにおいて、研究室を公開し，訪問した高校生に積極的に学習・研究内容についての説明を行った。また、教員免許更新講習「沖縄島嶼部から食料と水環境問題を考える」を通じて、琉大農学部地域農業工学に関与する科目を提供した。沖縄本島南部地域の地下ダムや農業集落排水施設に関する研究内容を沖縄総合事務局、沖縄県、沖縄本島南部土地改良区、金武町、宮古島市等の関係行政機関に報告・助言を行うとともに、農業集落排水事業推進連絡会議や農業集落排水事業講習会の講師として講演を行った。さらに、新日鉄住友エンジ（株）等の民間企業等と連携して調査・研究活動を実施した。これらの取組等を通じて、技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行い社会貢献に努めた。
管理運営	0.10	学部・学科の委員等を務め、大学・学部の管理運営に積極的に参画する。	情報処理センター委員などを務め、大学全体の学務運営にも寄与した。
進路指導	0.10	公務員志望の学生を対象にした講演会・進路相談会の企画を通じて、学生の進路指導を積極的に行うとともに、技術系コンサルタント会社等の民間関連会社との就職に係る情報・意見交換会等の企画する。	公務員志望の学生を対象にして、3回の外部講師（沖縄県庁、沖縄総合事務局職員、沖縄県土地改良団体連合会）による講演会・進路相談会を企画・実施した。また、技術系コンサルタント会社の対象にした講演会・進路相談会を1回実施した。これらの取組を通じて、学生の進路指導を積極的に行い、就職に係る情報提供・支援に努めた。
	0.00		
計	1.00	備　考	

名　前	黒田　登美雄	所　属	（学部・研究科等）　農学部　地域農業工学科	職　名	教授

領域	業務ウェイト比		年度末自己点検結果
教育	0.30	・授業ノルマを果たす（共通教育、学部、教職科目、大学院） 情報科学演習（5コマ）、環境情報科学、情報処理学、環境地質学、環境情報 学特論、情報学特論。 ・WebClassを利用した教材・資料等の充実を目指す。 ・教員免許状更新講習を担当し、研究成果を授業に反映させる。 ・授業評価結果を基に、学生からの授業に対する意見・要望の聴取	(1)授業ノルマを果たす件に関しては、共通教育（情報科学演習5コマ）、学部の専門 科目（環境情報学、情報処理学、環境地質学、地域農業工学演習）及び大学院とも に一応目標は達成できた。 (2)Webを利用した教材・資料等の配布に関しての目標は、従来から行っていた共通 教育科目及び学部専門科目については一応達成している。しかし、大学院科目に ついては、著作権等の問題からメールにより一斉送信している。 これらの問題はWebClassを利用すればクリアできるが、未だ対応できていない。 (3)本年度においても教員免許状更新講習を担当する機会があった。研究成果の授 業への反映に関しては、その一部を大学院及び学部等での講義において反映させ た外に、平成24年9月22日（土）沖縄県で開催された日本都市計画学会九州支部 20周年記念事業シンポジウム「米軍普天間飛行場跡地利用における水と緑のネッ トワークの再生をめぐる論点と課題」における基調講演などで、その成果を社会に 対しても還元することができた。 (4)授業評価等により学生からの授業に対する意見・要望の聴取については、おおむ ね出来たが、しかしながら、現状では学生の意見・要望にすべて応えられるよう な授業となっていない。今後とも引き続きたゆまぬ努力が必要である。
研究	0.10	・教育工学の視点から情報処理教育法について検討する ・平成19年度～平成24年度までの過去6年間にわたり実施してきた入学者ア ンケート調査の取りまとめ及び解析を行う（AO室業務教員）。 ・学会活動に積極的に参加（日本地質学会地質災害委員会委員、日本応用地 質学会九州支部評議員） ・本年度より2年間をかけて伊平屋島におけるボーリングコアを用いた花粉分 析を行い、完新世以降（過去1万年間）の古環境の復元を行う。	(1)教育工学の視点から情報処理教育法について検討する この件に関しては、情報関係科目小委員会を開催して検討を行った。その結果、 検討課題となっていた共通教育として提供する情報科学演習に関しては、教職 指定科目に指定されているため、各学部学科が要望する授業内容を優先させた 科目名への変更については行わず、本学が全学的に取り組んでいる「琉球大学 グローバルシチズンカリキュラム（URGCC）に合わせた授業内容とし、平成25年 度から提供される情報科学演習では、その授業内容にふさわしいシラバスを作 成して対応することとした。しかし、その成果を学会等では発表できていない。 (2)入学者アンケート調査の実施に関しては、平成24年度に関しても集計等の業務 を担当した。また、平成19～24年度までの過去6年間にわたり実施してきたアン ケート調査結果の解析を行い、その取りまとめを行っている。その成果につい ては、平成25年6月8日～6月7日、開催予定の平成25年度全国大学入学者選抜 研究連絡協議会大会（第8回）において「6年間の入学時意識変化について　― 琉大生入学前アンケートに基づくトレンド　―」として研究発表の予定。 (3)日本応用地質学会九州支部評議員としては活動したが、地質学会地質災害委員 会委員として、災害地に赴き災害調査等に従事することができなかった。授業及び 学内業務を行いながら、学会活動を行うことには限界があり、議論が必要。 (4)伊平屋島におけるボーリングコアを用いた花粉分析に関する研究については、沖 縄県史の原稿執筆等を優先したため、行うことができなかった。
社会貢献	0.30	・学外の各種委員会への参画 琉球石灰岩を支持層とする橋梁基礎の設計・施工技術検討委員会委員、農 業用ダムの技術検討委員会委員（伊良部島地下ダム，伊江島地下ダム、宮 古島地下ダム）、新石垣空港工法モニタリング委員会委員、新石垣空港事 後 調査委員会委員、伊良部大橋基礎工検討委員会委員、沖縄県史編集専門 部会地誌班委員 ・日本水土総合研究所客員研究員 伊江島地下ダム，宮古島地下ダムなどの調査・設計及び技術的な課題につ いて検討 ・防衛省アドバイザー	(1)学外の各種委員会での活動 琉球石灰岩を支持層とする橋梁基礎の設計・施工技術検討委員会委員として、 琉球石灰岩を支持層とする橋梁基礎の設計・施工技術マニュアルの取りまとめ を行った。農業用ダムの技術検討委員会委員、新石垣空港工法モニタリング委 員会委員、新石垣空港事後調査委員会委員、中頭東部地区地すべり対策検討 委員会委員、沖縄県史編集専門部会地誌班委員及び読谷村ハザードマップ検 討委員会等に出席し意見を述べた。その他に、沖縄県が検討している第32軍司 令部壕の将来的な安全性及び保存の可能性等の検討会及び（一財）都市みらい 推進機構が主催する平成24年度「普天間飛行場跡地利用計画方針策定調査」 における意見交換会にアドバイザーとして出席し意見を述べた。 (2)日本水土総合研究所客員研究員 伊江島地下ダム、宮古島地下ダムなどの調査・設計及び技術的な課題について 検討し、報告書を作成した。 (3)防衛省環境影響評価アドバイザー 辺野古地区における地下水調査及び埋め立て材料等の採石場候補地調査等に 関しての現況報告を受け、今後の調査方針等について助言した。
管理運営	0.29	・全学的各種委員会活動への積極的参加 全学教育委員会委員（情報関係科目企画小委員会委員長）、総合情報処理 センター運営委員会委員（大学教育センター）、総合情報処理センター情報 処理教育委員会委員、教員免許更新講習実施委員会委員、教員養成運営 委員会委員、AO室広報企画部門長（兼任）	・情報関係科目企画小委員会委員長として、毎月大学教育センターで開催される委 員会へ出席した。また、同科目企画小委員会委員長としては、平成25年度「情報科 学演習」の時間割の作成を行った。総合情報処理センター関連の各種委員会委員 としては、委員会に出席し同センターが管理するパソコン教室の利用計画等の調 整 を行った。教員免許更新講習実施委員会委員としては、平成25年度実施予定の提 供科目を各学部から募集し、また自らも提供予定科目（平成25年度においては2 科 目提供予定）のシラバス等を作成した。教員養成運営委員会委員としては、平成 25 年度から実施することが義務付けられている「教職実践演習」科目の教育方法と評 価基準等に関する全学的な統一申し合わせ案を作成した。また、教育実習に際し て は、実習を受け入れてくれた高校を訪問し、実習生が行う授業参観等についても行 った。AO室広報企画部門長（兼任）としては平成24年度入学者へのアンケート調 査 を実施し、アンケートの集計及び取りまとめを行った。また、平成25年度入学者へ の アンケート調査等の見直しについても検討している。 以上のように、全学的各種委員会活動へはおおむね積極的に参加した。
進路指導	0.01	・農学部教員として授業等においてキャリア教育を行い就職支援をサポートす	・本年度においては、卒業研究及び修論研究等を行っている学生についてのみキャ リア教育及び就職支援活動を行い、沖縄県庁への採用が内定した。一方、他の学 生に対しては担当している授業科目において、キャリア教育に役立つような話題を 取り入れた授業をするように心がけたつもりだが、積極的な就職支援等に関するサ ポートは行っていないため、その効果は十分であったとはいえず、反省の余地があ る。
	0.00		・・・
計	1.00	備　考	

各教員は、本シートに年度目標等を記入し、4月16日（月）までに評価者へ送付	⇨	評価者は、必要に応じ、4月20日（金）までに当該教員と年度目標、ウェイト比を調整。必要に応じ、4月25日（水）までに三者間（評価者、当該教員、部局等の長）で調整	⇨	評価者は、本シートを4月27日（金）までに部局長等へ送付	⇨	事務部は、シートを取りまとめ5月2日（水）までに評価室へ提出	⇨	各教員は、「年度末自己点検結果」を記入し、25年2月6日（月）までに評価者へ送付

（別紙1） 本シートは平成25年5月以降に学内外へ公表されますので、記載に当たっては公表されることを念頭に置いてください。

平成２４年度　教員活動における年度目標・自己点検結果シート（１枚目）

名　前	中 村 真 也	所　属	農学部地域農業工学科	職　名	准教授

領域	業務ウェイト比（予定）	平成24年度　年度目標設定	業務ウェイト比（実績）	平成24年度　年度末自己点検結果
教育	0.35	土地環境保全学、土の物理学、地域環境演習Ⅱ（分担）、工学の力学（分担）、地域環境実験Ⅰ・Ⅱ（分担）等を担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行う。地域資源環境工学特別講義（博士課程）の一部および農村環境保全・防災学特論（修士課程）を担当する。	0.35	土地環境保全学、土の物理学、地域環境演習Ⅱ（分担）、工学の力学（分担）、地域環境学実験Ⅰ・Ⅱ（分担）等を担当し、JABEE基準を満たす講義を行った。また、教職科目の地学概論、地学基礎実験の一部を担当した。また、農村環境保全・防災学特論（修士課程）を担当した。学生の学会発表を奨励し、国内外の学会にて11件の発表を行った。
研究	0.35	博士課程および修士課程の学生、ポスドク研究員と共に研究を行い、研究成果について、論文として投稿・公表し（レフリー付学術誌に2編以上）、学会発表を行う（国内外において3回以上）。	0.35	論文2編（国内誌1，国際誌1）および学会発表17件（国内15，国外2）により研究成果を公表した。Geological Society of Americaより，優れた研究業績に与えられる賞″E. B. Burwell Award″を受賞した。
社会貢献	0.10	行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行う。また、県内の土木技術者のための技術交流会を主催する。沖縄総合事務局，沖縄県，市町村等の委員を適切な範囲で務める。	0.10	民間企業からの依頼を受け，研究成果を生かした技術指導を行った。沖縄総合事務局の「中頭東部地区地すべり対策検討委員会委員」および「道路防災ドクター」，沖縄県の「第32軍司令部壕対策委員会委員」を務めた。
管理運営	0.10	全学の広報委員および農学部の広報委員長ほか各種委員会委員等の役割を果たす。	0.10	全学の保有個人情報管理委員会および広報委員会の委員を務めた。また，農学部の広報委員長と，将来計画委員会，入試委員会，地域貢献支援委員会、中期目標・中期計画推進会議の委員を務めた。
進路指導	0.10	地域農業工学科の学生を対象に，講演会「仕事と人生」を分野主催で開く。	0.10	学生対象の講演会「仕事と人生」を沖縄総合事務局土地改良課長を講師として開催した。ピアサポート制度を活用して公務員試験対策の勉強会を実施した。
	0.00		0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記載してください。 ・記載量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記載してください。

4月30日まで シート提出→評価者		5月11日まで シート提出→部局等長		5月22日まで 内容調整（評価者・当該教員間）		5月29日まで 部局等内とりまとめ		6月5日まで シート提出→評価室	

平成21年度　目標管理及び自己点検シート（表面）

所　属	（学部等）　農学部	（研究科等）	職　名	助教
名　前	安元　純	その他		

領域	業務ウェイト	年度目標	年度末自己点検結果
教育	0.20	学科科目として、測量学実習（分担）、地域環境実験I（分担）、製図（分担）、卒業論文I，IIを担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行う。また、教職科目の、情報科学演習25組（分担）を担当する。	学科科目として、測量学実習（分担）、地域環境実験I（分担）、製図（分担）、防災工学総合演習（分担）を担当し、シラバスに沿った展開を心がけ、JABEEの基準を満たす講義を行った。また、教職科目の、情報科学演習25組（分担）を担当した。
研究	0.50	農業農村工学会等の研究関連分野の学会講演会等（地球惑星科学連合大会，日本地下水学会春季・秋季大会，農業農村工学会全国大会，土木学会水工学講演会）で研究報告を行うとともに、関連学会の学会誌等に研究論文を2報程度投稿する。さらに、助成研究等の実施を通じて研究成果の実用化に向けた取り組みを目指す。また、学会の委員や研究会等を通じて、学外学会活動に貢献する。	農業農村工学会等の研究関連分野の学会講演会等（地球惑星科学連合大会，日本地下水学会春季・秋季大会，農業農村工学会全国大会，土木学会水工学講演会）で研究報告を行った。また、研究論文が3報（共著含む）受理され，3報は査読中である。さらに、県の補助事業を2つ，研究助成事業を1つ中野教授と共に実施しており，研究成果の実用化に向けた取り組みを行っている。また、地下水学会の男女共同参画委員や研究会等を通じて、学外学会活動に貢献した。
社会貢献	0.10	オープンキャンパスにおいて、研究室を公開する。行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行うことで社会貢献に努める。	オープンキャンパスにおいて研究室の公開を行い，訪れた高校生に研究内容についての説明を行った。また、行政・企業の技術相談に積極的に応じ、研究成果を生かした技術コンサルティングを行った。
管理運営	0.10	学部及び学科の委員を務める。	図書運営委員会，安全衛生管理委員会，地域貢献委員などを務め，農学部の管理運営に参加した。地域貢献委員会の委員としては，講演要旨集の作成や会場の設営などを担当し，地域貢献シンポジウムの開催に積極的に協力した。
進路指導	0.10	学生の進路指導を積極的に行い、就職支援活動活性化の一助とする。	学生の進路指導を積極的に行った。また，中野教授の企画された公務員や技術系コンサルタント会社等の民間関連会社との就職に係る情報・意見交換会等の企画・補助を行った。
	0.00		
計	1.00	当該シート（表）の公開を希望しない場合には、その旨右記空欄に記載してください。	